

# 里山サイコー

## 再考・最高・さあ、行こう!

「よこはま里山研究所(NORA)」と聞けば、普通、横浜の「里山」を研究しているところだと思っただろう。さらに、「里山」を研究しているらしいから、「里山」が何たるかを冷静にきちんと説明できるはずだと考えるかもしれない。

ところが、こうしたNORAに対する印象は実態と異なる。まず、NORAのフィールドは横浜だけではない。「よこはま」と平仮名を選んだのは、「まちづくり」という柔らかい表現と同じように、横浜を中心とした「まち」に比重を置こうとする方向性を示している。つぎに、学問的な研究所でもない。身近な里山に関心をもち、その場所とのかかわりを大事にする人が増えるようにと願って活動している。そのため役立つ研究ならばよいが、研究のための研究では意味がない。「研究所」としたのは、専門家の集団といったイメージを伝えるためである。さらに、「里山」という言葉が指す内容についても、期待されるようには答えられない。

「よこはま里山研究所(NORA)」と聞けば、普通、横浜の「里山」を研究しているところだと思っただろう。さらに、「里山」を研究しているらしいから、「里山」が何たるかを冷静にきちんと説明できるはずだと考えるかもしれない。

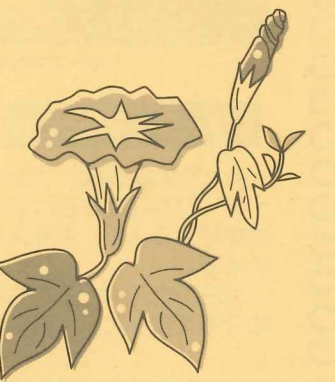
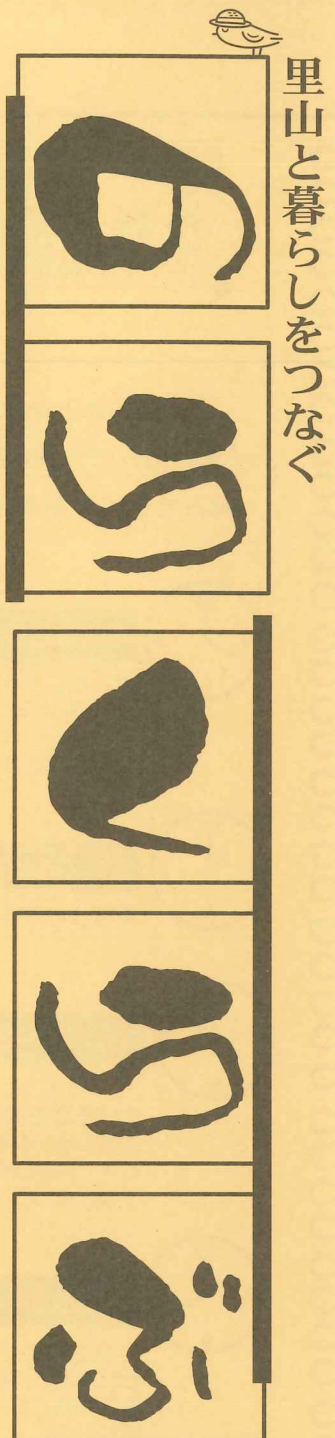
ところが、こうしたNORAに対する印象は実態と異なる。まず、NORAのフィールドは横浜だけではない。「よこはま」と平仮名を選んだのは、「まちづくり」という柔らかい表現と同じように、横浜を中心とした「まち」に比重を置こうとする方向性を示している。つぎに、学問的な研究所でもない。身近な里山に関心をもち、その場所とのかかわりを大事にする人が増えるようにと願って活動している。そのため役立つ研究ならばよいが、研究のための研究では意味がない。「研究所」としたのは、専門家の集団といったイメージを伝えるためである。さらに、「里山」という言葉が指す内容についても、期待されるようには答えられない。

うとする試みがあることは知っている。『広辞苑』に「里山」が新語として登場したのは第五版(一九九八年発行)であったが、そこには「人里近くにあって人々の生活と結びついた山・森林」と簡潔な説明が与えられている。これは、人里から離れた「奥山」に対して、身近な森林として、薪炭、肥料、飼料、生活資材などを得てきた林野を「里山」と呼ぶ、という理解に支えられている。しかしこの定義の示す範囲は、私たちが普通に「里山」と呼ぶ領域よりも狭い。普段は、森林(雑木林、人工林、竹林など)だけではなく、田んぼ、畑、草地、ため池、小川、民家など、さまざまな環境を含んだ農村空間を指す言葉として使っている。つまり、林野に限定した領域を狭義の「里山」とすれば、日常用語としての「里山」は、それを含んだ広義の「里山」という意味で用いられている。

中では意味や領域を示せないもの、と考えているからである。

人と「里山」とのかかわり方は多様である。ある人は、退職後にも生きがいを得ようと「里山」での保全作業に参加し、地域の仲間と気の置けない人間関係を築いている。ある人は、「里山」の資源を生かす伝統的な知恵や技術を文化遺産と捉え、農家や林家からそれを継承したいと記録している。ある人は、「里山」を人として生きる上で必要な力を育める場として捉え、青空保育を実践し、児童・生徒の環境教育の場として利用している。またある人はさまざまな草花を愛でたり、野鳥の声を耳をすませたりする気持ち良い散策路として、開発されずにいつまでも残ってほしいと願う。このように、「里山」とは、そこにかかわる人がいて、はじめて意味をなす。そして、さまざまな関係性が成り立つところに「里山」の魅力があるように思われる。だから、「里山」を決まった言葉で定義しようとしても無理が生じるので、私たちの視点から里山の

(理事長 松村正治)



里山と暮らしをつなぐ

事務局よりぜひお伝えしたいこと

# NORAよりかしこ

### 「NORAの部活」 始まります!!

好きなこと、やりたいことを、NORAを通して実験できる…:会員が2人以上集まれば、興味によって自立的な活動をする「部」を立ち上げる事が出来るようになります。テーマは、里山、自然、農、暮らし、環境、地域など。多少のこじつけでも、納得感があればOK。部活から、NORAの正式プロジェクトへ発展することも可能です。

#### 【特典】

- ・NORA事務所のオープンスペースを利用できます
- ・NORAとして助成金など各種申請ができます
- ・成果などをホームページ・出版物等で発信できます
- ・NORAのリソース(ノウハウ、情報、各種ツールなど)を利用できます
- ・アイデアレベルでも立ち上げることが出来ます

#### 【立ち上げるには?】

下記を事務局までお知らせ下さい。どのように進めるかを事務局と相談して頂き、部活スタートとなります。部員が一人しかない場合は、NORAを通して募集することもできます。

- ①部名②部長③部員④活動内容⑤その他 (T)

### 続・大岡川の桜もつたい ない!!…南区からさくら利用 の調査依頼

大岡川の桜は市民にとっても愛されています。しかしソメイヨシノは寿命が短く、街なかでは弱りが早いだけでなく、折れたり倒れたりする危険もあります。そのため、毎年10本ずつ更新していく計画があります。

前号でお伝えしましたが、なんとか伐採される桜を材として使うことができないか、という調査依頼を南区役所から受け、この夏から本格的に取り組むこととなりました。横浜市内を中心に、製材・加工業者へのアンケート調査や学校等での材を利用できるかどうかのヒアリングを行っていく予定です。木が伐られた後、処分することなく形をかえて使い尽くす。「大岡川の桜の記憶」がたくさんの人たちに還って欲しいなあ、と思っています。

8月4、5日に蒔田公園で夏祭りがあります。そこで「さくら工作コーナー」を開く予定です。ぜひ皆さん足を運んでください。(M)

### 夢の市民農園運営!?

「NORAで市民農園が開設できるか?プロジェクト」を発足しました。市民グループで耕作している現場などを視察。今後、条件の整理などを行っていく予定です。(M)

### ご支援ありがとうございます!!

今年度あらたに設けた法人の賛助会員枠にさっそく加入のお申込をいただきました。

- ・株式会社大和ビルディング様
- ・有限会社むし社様

心から御礼申し上げます。

一法人の年会費でこの「のらくらぶ」発行一号分の印刷費がほぼ賄えます。法人会員増は財政面で心強いばかりでなく、NORAが企業や団体とも協力関係をつくり、ともにまちづくりに取り組んでいく可能性をひろげるものと期待しています。

今後、地元の企業へむけて情報発信に力をいれていきたいと思えますので、会員の皆さまにもこれは、というご紹介先など、ぜひよろしく願います。(R)

【ただいま募集中】  
講座&バスツアー 9/1・16・27  
「いいじゃん!よこはま・かながわの食と農」

先着20名様。くわしくは同封のチラシをご覧ください。

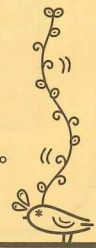
## のらくらぶ ~夏の号 平成19年7月15日発行

【発行・編集】  
特定非営利活動法人よこはま里山研究所~NORA  
のらくらぶ編集委員会

〒232-0017 横浜市南区宿町2-40大和ビル119  
TEL 045-722-9674 FAX 045-722-9675  
http://www8.ocn.ne.jp/~satoyama/  
nora-y@estate.ocn.ne.jp

【NORA会員および年会費】  
運営(正)会員:12,000円  
一般(準)会員:3,000円  
賛助会員:個人一口10,000円、法人三口以上

\*いずれも「のらくらぶ」送付・イベント割引など特典あり。  
郵便振替口座:00200-4-72504 よこはま里山研究所  
お問合せはNORA事務局まで。



今日のNORAびとは  
えだのさなえ  
枝野早苗さん  
(小田原市 梅生産農家)

農業は世界のうごきと全部つながってる。  
だからおもしろい。

枝野さんは小田原市曾我で梅の生産加工農家を営み、その傍らフェアトレード・エコグッズ・こだわり食品のSHOP「ちえのわハウス」の経営にかかわり、ある時は子どもたちにアート教室を開き…常にアンテナを高く張って、様々な取り組みで多忙な毎日を送られています。そんな枝野さんを、加工所兼アトリエ「サボテン工房」に訪ねました。

8:00…収穫  
たわわに実った青梅でみるみるカゴはいっぱいに。『生産する人だけが“農家”じゃないのよ。消費者と生産者に分けるのではなく、皆と一緒に地域と暮らしを守っていかなくちゃいけない。だから一人でも多く農業に関心を持って欲しいの』

11:00…選果  
青梅は梅酒用。樹から落ちた梅は梅ジャム、梅ジュース、梅エキスに…。

14:00…出荷を終えた軽トラは「ちえのわハウス」へ  
『「ちえのわハウス」にどうして関わりだしたかっていうと、自分がやりたい企画を実現できるから。何をやっても簡単なことはないけど、こんなおもしろい経験させてくれるところ他にないよ。世の中「いかに儲けるか」とか「いかに手間を省くか」とか、合理的にしか考えられなくなってきてる。でも、そうじゃないでしょ』

16:00…梅ジャムづくり。完熟梅のあま〜さわやかな香りが工房に  
『農業で稼ぐのは確かに大変よ。でも、作ったものに皆に喜んでもらえる、それも自分の報酬とする。それでいいの。ディズニーランドで遊ぶお金より、皆で泥んこになって竹の子掘ったり、料理して食べる楽しみの方が私には嬉しいの』



梅林で収穫を終え、ほっと一息。

21:00…アート教室の準備。障がいを持った子どもたちに絵の楽しさを…!

『自由に絵を描いたり、粘土に色をつけたり。そんな子どもたち見てると涙が出るよ。ずっと続けなきゃって思う。手応えを感じさせて帰らせてあげたい』  
『農業だけでなく多忙の毎日、こんなに幅広く活動できる原動力はいったい何でしょう？』  
『農業は世界の動きと全部つながってる。食品のこと、地域のこと、地球のこと、次の世代のこと、考えるし、勉強するようになる。農業だけで完結しない。だからおもしろいんだよね』



工房でのジャム作り。活躍する道具は「たこ焼きタネ注入器！」



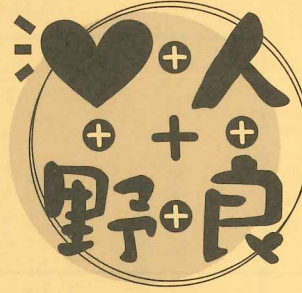
完熟梅の香りが広がります

レポーターのひとこと

『美大で学んだのは“本当の美しさ、美意識とは何か?”。それは、ここでたくさん見つけられるの』  
テーブルにはさりげなく飾られた野の花。壁に並び使い込まれた道具たち。80年を経た建物は建替えるより、手を入れて活かす。そんな枝野さんの絵になる佇まいは曾我の梅林に馴染んでいます。  
『毎日の充足感、これも自分の報酬よ』にっこりと語られた言葉に、「豊かに暮らす」ことを改めて考えました。(編集委員：鈴木美奈)

ちえのわハウス  
東海道線国府津駅そば  
0465-49-6045

食に風景あり。



おうちで  
らくらく  
お料理

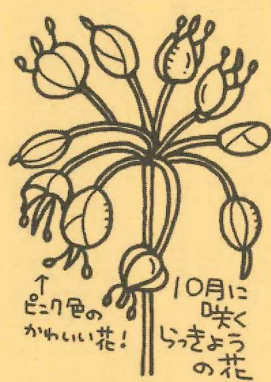
私の幼稚園時代の大好物はなんと「らっきょう」。今でもらっきょうは私の胸を熱くする。そのらっきょうが神奈川県で生産されていると知って驚き！しかも、無農薬でこそ、仲間8人ほどで我が家で「地モノのらっきょう漬け」に挑戦するのだ。

6月16日午前11時(快晴)、8kgの神奈川県川中井町産らっきょうが泥付のまま登場。なんとも新鮮！そしてパラエティに富んだ形。らっきょうは玉ねぎと同じように上に葉が生えているが、それは既に生産者が切り落としてくれた。まずはらっきょう洗いから。そこに友人のお母さん登場。「ビニール袋に入れて洗うと泥は取れやすいのよ。」と言いつつ手際よく洗い、見事に綺麗になりびっくり。お母さんには生活の知恵がいっぱい！

洗った後に薄皮をむく。「ツルツとむけそう!」「あれ〜どこまでむくの!」「本皮までむいてしまったような…(汗)」  
「うわ〜結構難しいね!特にこの小粒!」  
小さいらっきょうの薄皮を一つ一つむくのは永遠に終わらないかと思われた。次に根と茎の部分切る。はさみよりも包丁の方がやりやすいことを発見。今までスパーで購入していたらっきょう。その裏にこんな細かい作業があったとは…改めて農家の人たちに感謝の気持ちがいっぱい湧いてきた。今回は甘酢漬(と白漬(砂糖少なめ))にチャレンジ。  
一人一人が自分の密閉ビンにらっきょうを詰め、好みの漬け汁を入れ、午後2時ついに完成!各自ビンを持ち、最高の笑顔で記念撮影。

最後に今日の師匠からのアドバイス、「混ぜる効果があるから、ビンを時々蹴飛ばしてね。9月にはおいしく食べられると思うよ。」みんな頷きながら、心の中では「えっ、9月?既においしくなるのに。ちょっとずつ食べちゃおうっ!」とつぶやいていた。

「らっきょうはユリ科で多年草の植物。別名「オオニツ」,「サトニツ」。普段、私たちが食べているのは鱗茎(りんけい)と呼ばれる短い茎のまわりの沢山の葉が養分を蓄積して、白い球形になったもの。その効能から「畑の薬」とも言われている。原産国は中国。平安時代に薬用植物として日本へ。江戸時代に野菜として栽培されるように。中国では生食され、台湾では煮るものにも。日本、中国、台湾以外では食されていないらしい。あんなにおいしいのもったいない!らっきょう文化を広めたいという気持ちがフツフツと湧いてきた私であった。」  
(会員 園田理江)



NORAレポート 区が行う緑保全施策(第2弾)

地域の緑を守り育てるには、地域の力が必要です。全市レベルの施策がほとんどですが、現場をかかえる区では、どのような取り組みがあるのでしょうか。具体的にどのような事業が行われているのか、特長ある事業や市民の参加のしかたについて伺いました。

	具体的な施策	課題・展開
栄区	都市計画・「栄区まちづくり方針」で「自然に囲まれた生活ができるまちづくり」がひとつの目標として掲げられている。その中でさらに4つの方針があり、具体的な取り組みについても記述。独自の緑地保全施策として「地域で育む身近なみどり」推進事業がある。地主と1年ごとの契約を結び、地域のボランティアとともに管理の支援を図る。昨年、指定緑地第1号が誕生。	18年度に区独自で行った区内民有緑地の再点検結果に基づき、緊急度の高いものから、保全に向けた意向調査を実施するなど、効果的な手法の検討や、今後の新規緑地に向けた、ボランティアの更なる充実が必要となっている。
緑区	「緑と水の回廊」づくりプラン(緑と水のまちづくり方針)の中で4つの大きな方針を設定。さらに各方針について目標像・現状と課題・まちづくり方針を記している。緑と水の回廊ルートの設定、市民活動の活性化と連携(環境学習ができる機会を設け区民の関心を高める、自然観察や樹林地の管理などの指導者を育成など、緑を支える人材を増やす)	民有緑地・農地の維持・管理について、市民活動が継続できる仕組みを検討。区民とともに自然環境を考えるきっかけづくりを目的に「緑区みどころ再発見事業」を今年度実施。現在、「好きな風景・残したい風景」を募集。
瀬谷区	瀬谷の水と緑のPRの一環として、「環境祭(パネル展)」の開催、「せや水緑通信」の発行、「水と緑のせや・写真館ホームページ」の運営などを行っている。「環境祭」では、地域の愛護会、森づくりボランティアの取組などの紹介、写真展などを実施。団体間の交流の場もねらい。	今年度の「環境展」・「せや水緑通信」の具体的な内容について検討中。
港北区	「港北 水と緑の学校」は、限りある身近な自然環境を大切と思う人と人のつながりを生み出し、環境活動が継続的に地域に根ざすことを目指している。学校や地域、環境活動団体の協力を得て、環境学習講座や地域交流会を開催。小学校のクラブ活動内等で実施。今後活動の展示の場も設け、楽しい雰囲気を広げていく予定。	各学校・地域での環境活動が今後も継続し、他地域へも波及していくため、どのようなサポートを行っていくべきかが課題。

緑被率の高い10区について2回にわたり伺いました。緑・栄・泉区では独自の緑地保全策を講じていますが、他は環境学習等に力を入れているところが多く、緑地保全については本局にお任せといったところもありました。市民も協力して小さな緑も大事にしていく施策をつくっていききたいものです。